

経済産業省
資源エネルギー庁
長官 保坂 伸 殿

一般社団法人 日本保全学会
会長 橋爪秀利
(「提言検討会」主査)



カーボンニュートラル実現に向けた 原子力発電の活用に係る提言

1. はじめに

日本保全学会では、今年開催した第17回学術講演会において、新たに「提言テーマ」を設定して議論するセッションを設け、この議論を踏まえて提言として取りまとめた。

「提言テーマ」の一つに、「エネルギー問題」と題したテーマを設定し、わが国の将来のエネルギーに係る原子力発電の活用の在り方について議論した。

学術講演会では本テーマに関連して募集した論文（15件：添付資料2参照）を基に、第一次セッションでは、問題の認識、課題の提起および意見を発表していただき、参加者での意見交換を行いその内容をとりまとめ、第二次セッションではパネリストを中心に議論を進め、第三次セッションではパネル討論の結果をまとめて更なる意見交換を行い、「エネルギー問題」への提言（添付資料1）として取りまとめた。

カーボンニュートラル達成には原子力発電が不可欠だが、そのためには我が国のエネルギー政策として、原子力発電の積極的な活用を推進する施策が必要である。学術講演会及び学会内に設けた提言検討会での議論を踏まえ、「エネルギー問題」への提言の中から我が国のエネルギー政策に係る以下の項目を提言する。なお、それ以外に提起された原子力発電の安全性の継続的改善とより多くの社会貢献については、保全学会として今後継続して検討を進めていくものとする。

2. 提言

- [1] カーボンニュートラル実現に向けて、電力価格の上昇抑制、自然災害等への電力供給レジリエンス強化、技術自給率を含むエネルギーセキュリティ確保に、原子力は最も合理的で不可欠な手段であることはこれまでの実績から明らかであり、安全を向上させた原子力が、エネルギーベストミックスの重要な一翼を将来にわたって担う必要があることを、政策として明確にすべきである。
- [2] 既存の原子力施設の安全な長期利用はもとより、飛躍的に安全を向上させる新技術を採用した建替えや新增設が不可欠であり、国による原子力発電への投資環境の整備や、原子力の環境価値の評価などを含む総合的な取組みが、早期に着手されるべきである。

3. 添付資料

- 1) 添付資料1：「エネルギー問題」への提言
(2021年8月 一般社団法人日本保全学会 第17回学術講演会実行委員会)
- 2) 添付資料2：講演論文リスト